

森・里・湖に育まれる 漁業と農業が織りなす 琵琶湖システム



世界農業遺産
令和4年7月認定
日本農業遺産
平成31年2月認定

滋賀県琵琶湖地域

多くの在来魚が生息する琵琶湖では、湖辺の水田に湖魚が遡上し、人は農作業の傍ら湖魚を捕獲する待ち受け型の漁法を発展させてきました。漁法の代表格はエリ漁であり、水産資源の保全に配慮する社会的な仕組みとともに、現代に受け継がれてきています。また、多様な主体による水源林の保全や、琵琶湖の環境に配慮した農業など、水質や生態系を守る人々の取組、森・里・湖のつながりは、世界的に貴重なものです。

伝統的な「待ちの漁法」



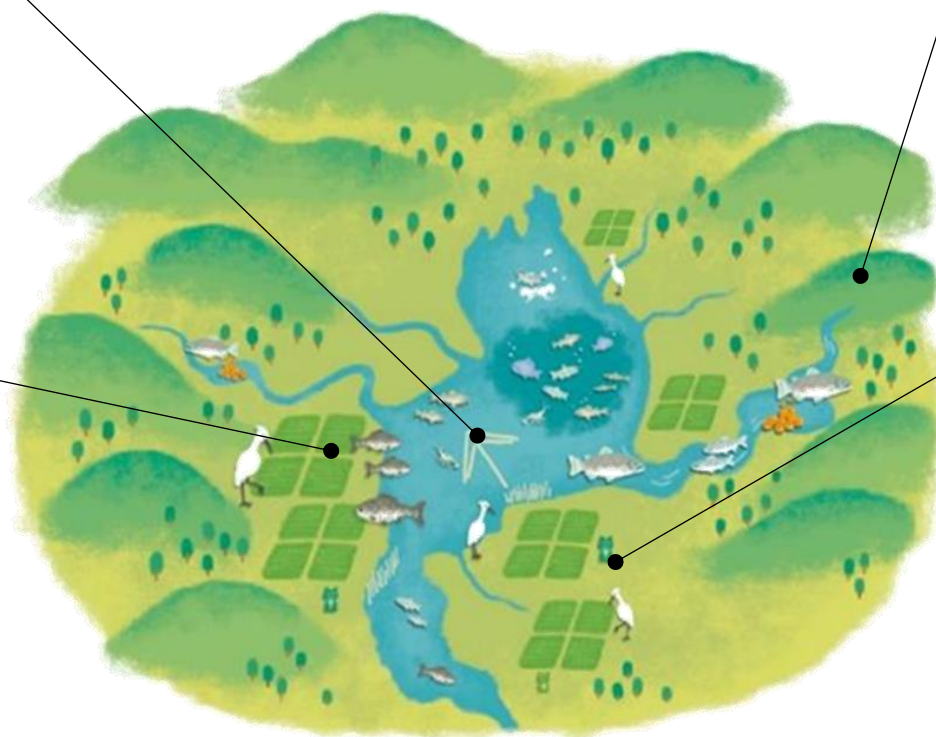
千年以上の歴史を持つエリ漁は琵琶湖を代表する漁法であり、ツボと呼ばれる部分に入ってきた魚を必要な量だけ漁獲します。

魚のゆりかご水田、 環境こだわり農業



湖魚に安全な繁殖の場を提供する「魚のゆりかご水田」の取組や、化学合成農薬・化学肥料を減らす「環境こだわり農業」を実践しています。

森・里・湖に育まれる 漁業と農業が織りなす 琵琶湖システム



水源林の保全



山に木を植えて育てることが洪水や渇水を防ぐことに役立つほか、河川を利用する魚たちを守ることにもつながります。

伝統的な食文化と祭り



湖魚をご飯に漬け込んで発酵させる保存食「なれずし」は、贈り物や神社のお供え物にも使われてきました。

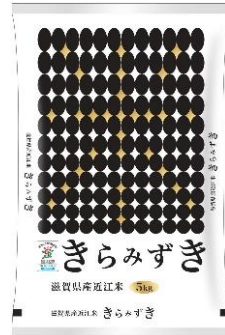
世界・日本農業遺産認定による効果

農林水産業

オーガニックの拡大による「環境こだわり農業」の深化

- ・ 水稲県育成品種「きらみずき」を中心としたオーガニック近江米の面積拡大のほか、オーガニック栽培の安定生産技術の普及や指導者の育成、有機JAS認証の取得支援などを実施

□ オーガニック米栽培面積：
146 ha (H29) → 325ha (R7)



「きらみずき」のパッケージ

協働による森林づくり

- ・ R4全国植樹祭を契機とした森林づくりの機運醸成や「やまの健康推進プロジェクト」の推進等による企業・団体等への積極的なPRを実施

□ 活動をPRする森林づくり団体数(県内累計)：
80団体(H28) → 171団体(R7)



令和4年全国植樹祭

次世代への継承

「琵琶湖システム」出前講座の実施

- ・ 「琵琶湖システム」を次世代に継承するため、学校を中心に、企業や団体等への出前講座を実施

□ 出前講座の実施回数:0回(H28) → 40回(R7)



小学校での出前講座

子どもたちへの理解促進

- ・ 県内小学生を対象に「琵琶湖システム」の主要な構成要素を体験する学習プログラムを実施。ほぼ全ての学校で取組が継続

□ 実施学校数：
うみのこ 237校(H28) → 233校(R7)
やまのこ 235校(H28) → 234校(R7)
たんぼのこ 203校(H28) → 201校(R6)



学習船「うみのこ」

観光

農山漁村におけるアグリツーリズムの推進

- ・ 農家を対象に研修会を実施し、農泊推進に関する講演を行うほか、ホームページ「グリーンツーリズム滋賀」にコンテンツを掲載。また、県の観光施策「シガリズム」においても琵琶湖システムの体験コンテンツを紹介

□ 都市農村交流体験施設登録数：
0件(H28) → 102件(R7)



ホームページ「グリーンツーリズム」

地域資源の持続可能な活用・保全を促進するための観光産業との連携

- ・ 観光関連事業者との連携により、世界農業遺産を感じられるコンテンツの創出やPRに取り組むとともに、ビワイチ※を通して周遊観光を促進

※琵琶湖および県内観光地を自転車で周遊すること



ビワイチの
ロゴマーク

生物多様性の推進

多様な主体が連携する「魚のゆりかご水田プロジェクト」の取組拡大

- ・ 推進団体として「琵琶湖とつながる生きもの田んぼ物語推進協議会」を組織。また、取組の情報発信のための研修会や交流会を開催

□ 「魚のゆりかご水田米」の認証組織数：
6組織(H28) → 18組織(R7)



生きものが賑わう魚のゆりかご水田

外来魚駆除

- ・ 効率的な駆除に取り組むための外来魚駆除対策検討会を開催。また、県と滋賀県漁業協同組合連合会が連携し、漁業者による外来魚駆除を進めるとともに、釣り人による外来魚駆除も実施

□ 外来魚生息量:1,131トン(H28) → 358トン(R6)



刺網による外来魚駆除